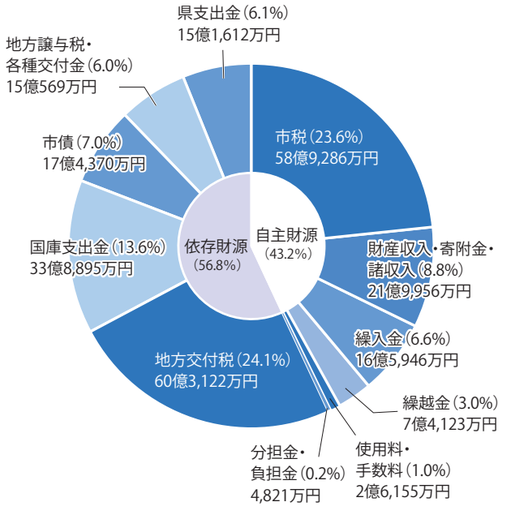
普通会計（一般会計）の内訳

前の年に進めていた大きな工事が完了したことで、収入・支出ともに減少しました。支出では、福祉や子育てに関する費用が大きな割合を占めています。



歳入の内訳

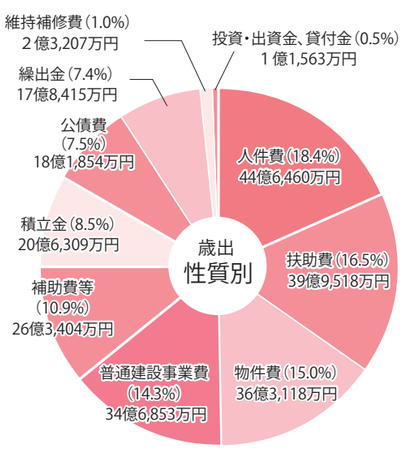
歳入　249 億 8,855 万円

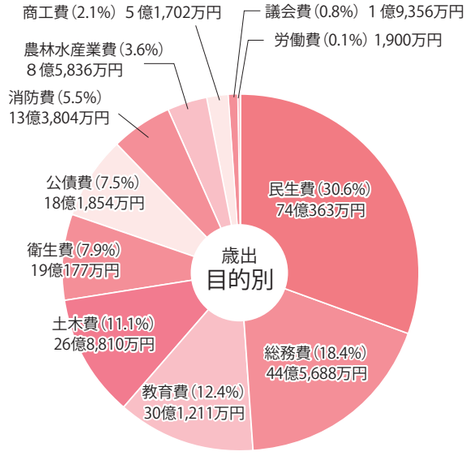
市の収入は、固定資産税の減少や、合併特例事業債などの借入金、火葬場整備に関する収入が減ったことなどにより、前の年より約５億９千万円減りました。

歳出の内訳

歳出　242 億 701 万円

市の支出は、ごみ処理施設の集約化や火葬場の整備工事が完了したことなどにより、前の年より約６億３千万円減りました。内訳を見ると、目的別では障害福祉や介護、保育園などに使うお金が最も多く、全体の 30.6%を占めています。なお、市の借金返済に使うお金は 7.5%でした。また、性質別で見ると、職員の給料などに 18.4%、児童手当や医療費助成などに 16.5%、建設事業に 14.3%使っています。





市民一人当たりの歳出額

■ 市民一人当たりに使われたお金　677,536 円

民生費 207,222 円 高齢者や障がい者、子どもなどの福祉	**総務費 124,745 円** 庁舎の維持管理、市税の賦課徴収、広聴広報など	**教育費 84,307 円** 学校教育や生涯学習など	**土木費 75,238 円** 公園や道路の整備など	**衛生費 53,229 円** 環境対策、保健・医療、ごみ処理など
公債費 50,899 円 国や金融機関から借りた市債の返済	**消防費 37,451 円** 消防や救急、災害対策など	**農林水産業費 24,025 円** 農業振興、農道・林道の整備、有害鳥獣対策など	**商工費 14,471 円** 観光振興、中小企業支援など	**議会費 5,417 円** **労働費 532 円**

※普通会計の歳出が一人当たりいくらになるのかを令和８年４月１日現在の人口（35,728 人）で算出しています。

決算報告

令和７年度
瀬戸内市会計決算

問財政課
☎0869-22-3905

普通会計決算の概要

市の１年間のお金の出入りは、収入が約 250 億円、支出が約 242 億円で、令和８年度に繰り越した事業の財源を差し引いても約７億３千万円の黒字となりました。また、災害などの緊急時に備える市の貯金（財政調整基金）は、前の年より約２億３千万円増え、年度末には約 39 億３千万円となりました。

市は黒字を確保し、いざというときに備える貯金も増やしています。

■ 会計別決算

（単位：万円）

区　分		歳入額	歳出額	差引額
一般会計		2,499,356	2,421,201	78,155
事業会計	病院事業会計	225,151	215,677	9,474
	水道事業会計	99,650	96,362	3,288
	下水道事業会計	155,539	149,464	6,075
計（事業会計）		480,340	461,503	18,837

※会計間の繰入・繰出の重複などを除いているため、上記本文の一般会計の額とは異なります。
※事業会計については、収益的収入および収益的支出を計上しています。
※特別会計の詳細は市ホームページをご覧ください。

市ホームページ

財政指標

市のお金の使い方を見ると、自由に使えるお金の余裕は少し減っていますが、財政は健全な状態を保っています。

人件費や福祉にかかるお金が増えたため、毎年決まって必要になる支出の割合は 89.9%となり、前の年より 2.5 ポイント上がりました。一方、市の財政状況が健全かどうかを示す指標は、いずれも危険な状態と判断される基準を下回っています。また、借金返済の負担を示す「実質公債費比率」は 8.2%で、市債の発行に県の許可が必要となる 18%以下を維持しています。

■ 財政健全化判断比率など

指　標		市の比率 %	早期（経営）健全化比率 %	財政再生比率 %
経常収支比率		89.9	—	—
財政健全化判断比率	実質赤字比率	—	13.02	20.00
	連結実質赤字比率	—	18.02	30.00
	実質公債費比率	8.2	25.0	35.0
	将来負担比率	36.8	350.0	—
資金不足比率（公営企業会計ごと）		—	20.0	—

※「ー」は該当なしを表しています。

今後の財政計画

将来の財政状況を見通し、中・長期的な視点に立って財政運営を行うため、今後５年間の財政計画である「瀬戸内市中期財政計画（令和８～13 年度）」を策定しています。詳細は市ホームページに掲載していますのでご覧ください。

詳しくはこちら